

1 太古の秘教学校

祈り

大いなる神に心を開きましよう。私共は祈り、称えます。神の御名とその子等をたたえます。御身を、神と母と子の聖なる三者として、生命の三原理としてあがめまつります。おお神よ、我らは御身の真理と愛と力の大きいなる現れを祈り求めます。真理を求める子等の目から、目隠しをお取り払い下さい。子等が光を見、光に満たされ、地と天の兄弟たちと一つに結ばれますように。喜びと愛と平和が、私共を一つに結び付けますように。

アーメン

はるか昔、現在の人類の周期が始まりつつあった頃、この地球に、「神人」と呼ぶべき英知の方々が、想像を絶する進化した世界からおいでになりました。これら神人たちは、太古神祕の知識を地上に持つておいでになり、人類指導のために、英知の学校を設立なさいました。神殿が建てられ、用意のできている者達が受け入れられ、指導を受け、太古の英知である生命の神祕を学習しました。

彼等は目に見えない世界からも教示を受けたのです。まず、地上に現れる一切は、不可視の世界に生まれるのです。これが後に、物質化して外に現れるというわけです。ですから、これら学校では、地上でそれが現れる以前の生命の神秘についても、畏敬をもって学習されたというわけです。

今日までに、地球の聖なる地域で、この太古の知識がシンボルとして書かれた石板で発見されている筈です。山の中や溪谷や寺院の隠れた聖遺物のたぐい입니다。こうした記録はエーテルにも印されておりまして、アカシックレコードと呼ばれます。これは相應のレベルに達したイニシエート（得度を得た人）でないと読めませんが。

今日では、万人が秘儀を求めることは自由です。ひとたび男でも女でも英知を希求しますと、それが興味本位とか欲得ずくとか、自己満足のためでなく、奉仕のためであるなら、その者は光明に至る道に足を置くこととなります。このような希求と探究の道に足を踏み入れた魂には、目に見えないところから導きと教示とが参ります。こうして道を見出した者は、道に真摯であらねばなりません。内なる光に真実であらねばなりません。一筋であり、右顧左眊せず、自己内在の光に真実を守りなさい。そうすれば、不可視の世界の神秘が、本人の器に応じ、またその知識を無私の奉仕に役立てるに依じて、

示されましよう。奉仕にはさまざまの形があることを心に止めて下さい。あれとかこれとかの一つきりの奉仕の形にとらわれず、自分の心の導きに従うことです。

過去の秘教学校は、霊が永遠の生命であることを示す、大いなる目的に奉仕して来ました。人間の起源とその道、すなわち人間はどこから来たのか、なぜ地上に存在するのか、その終着点は何か、このことを秘教学校は教えたのです。しかし、人類が物質に深く首を突っ込む時が来ました。そうして、人は霊の世界を見る「第三の目」を失いました。退歩がおこり、霊力の誤用がおこりました——それは恐らく、若い僧たちの焦りとか、学徒たちが試練に耐ええなくなったことによります。しかし、これとても神の計画からはずされるものではありませんでした。何となれば、精神と物質の両面で人間は進歩しなければならぬからです。人間は「物質くさく」なるのも必要だったのです。その意志の開発と強化、これが必要だったのです。

そこで、英知の大師たちは姿を隠し、地球の秘所にしりぞきました。彼等は今でもそこに住んでいます。しかしながら、時折一人の教師が、太古の英知の寺院から出て来て、人類にもう一度真理を提示します。特に、新時代の当初にはそういうことがあります。人類が新しい思想と生活に入って行く、新時代の到来の時です。そんな時には、必ず

太古の永遠の真理が、その新時代にふさわしい形で再説されます。そうして、人類が一つの時代から次の時代へと入っていく、困難な転換を助けます。

私どもは目下、新時代の先端に位置しています。それは靈性の時代、気の時代、精神と想念の力の時代です。ですから、今人類を偉大な知識が待ち受けています。もし人類がそれを愛と英知で使う準備があるならです。今や素晴らしい黙示の時です。天は開かれつつあります。目に見えない天使らが人間たちの間に活動しています。その光が人類の精神に徐々にさし入りつつあります。しかし、大いなる黙示が現れる前に、人類には自らなさねばならないことが沢山あります。男も女も靈的真理に前向きとなること、その生活姿勢が更に靈的となることです。内在の神性が発動して、心と精神をとらえることです。知性と直観が調和をもって働かねばなりません。すべての人にとり学ぶべきことは沢山あります。しかしながら、靈的学習の根本は同胞愛、ここにあります。

しかし皆さん、近道はございません。靈的進化を早めることと、近道をとって天へ行くのとは違います。前者は可能です——実際にそのようなチャンスが今人類に提供されており、後者は不可能です。靈性進化の道において、近道というのは存在しないのです。どの教訓も一つ一つを完全に吸収しなければならぬし、また実践に移

されなければならぬのです。しかし、今や地上には光の洗礼が注がれていますので、チャンスをつかんだ人々は、大きな歩度をもって前進が可能でしょう。皆さんは既に多くのグループが形成されたのをご存知です。また、大衆にチャンスが与えられつつあるのを、大衆の潜在靈力を学習するチャンスが増大しつつあるのを、ご存知です。

これまででは、秘教学校に入った者だけに、その知識に参入することが許され、大衆には道が閉ざされてきました。今やこのアクエリアス新時代にあたり、イニシエーションの門は大きくすべての人に開かれつつあります。——しかし、そこには危険が存在します。人類は識別の目を養わなければなりません。本物と偽者の見分けを学ばなければなりません。

多数の人達が内在の光を発現させるために、同胞団グループの中に引き入れられるでしょう。この光こそ病気を癒し、人々の魂にふれる真実の力をもたらすものです。この光は靈性進化の過程に生まれるものであって、真性の光です。これは弟子から発現し、人の魂に浸透します。但し、この光は神聖な力ですので、愛をもって、またしなやかに、深くものを見通す目をもって取り扱わなければなりません。このゆえに、この力は大衆から秘密にされていたわけです。しかし、今や人類全体が光のレベルにまで進歩しまし

た。靈的知識がもてそうなその近くにまで。

私共は皆さんが靈性進化の道を選ぶに当たり、ものを見分ける力をしっかりと持たれるよう、切に訴えるものです。と申しますのは、教師が出現しましても、その力には限りがあり、言いたい放題を言つて、人によつては進化の道からはじき出されます。言葉は入りこむと、人の心のドアを開きもします。しかし、言葉だけで人はイニシエーションの殿堂に入ることはできません。靈界の合言葉は言葉だけのものでなく、心の中に響くものです。真実の教えの一番確かなしるしは、真理じしんの持つ純粹な單純さです。更には奥底の深さです。どんな黙示に対しても、先ず單純さを求めなさい。次に、慎重に見つけた真理を実行に移しなさい。自分が真理そのものとなつて生きるように。

私共の言葉をお読み下さつた方の多くは、過去において聖白色同胞団の活動家だつた方々です。特に、現在何らかの（靈光を發している）ニューエイジ団体で奉仕なさつて居る方々はそうなのです。そういう奉仕にたずさわる方々は、過去世での經驗と奉仕活動で、あるていど靈的真理をすでに身につけておいでです。現世での生活を終え、他界に入つてからの貴方がそっくり今ここにあるわけじゃありませんが——あるいは、それは衣装戸棚に掛けてある、そこで出番を待っていると申しますか——一度學習した内的英

知というものは、決して失われることはありません。この故に、皆さんの多くは胸の内の太古英知を思い出す、そんな感じをお持ちです。といって、魂に組み込まれて、自分の中には真理があるぞと、そんな確信がなくてもいいのです。おそらくある時、皆さんは怠けて道から離れたのです。しかし、それは不名誉なことじゃありません。もう一度やる気を出す限りはです。神は慈愛に満ちておいでです、次の人生、また次の人生で、皆さんは新しいチャンスの場を与えられます。勇気を出して前進なさい。新たな努力を奮いたたせなさい。次に機会がきたら、前より今度はうまくやると決心なさい。結局、真実であれ、です。

昔のような寺院での訓練、隠遁と孤独の強制、そういうことはもうありません。現在は、弟子は誘惑から身を遠ざけることなく、世俗の中に住み、低級精神のたえざる誘引や、俗世間の感情や刺激にふれます。昔は、学徒たる者は隠遁をして、静穩の中で道を追求し、勤勉に奉仕と治療に活動したものです。そうすることで、顕幽両界の間のベールを開ける力が得られました。今日、皆さんもこのような力が手に入れられます。しかし、先ず人生の荒波の中で闘わねばなりません。そうした中で、偽りと真実、真理と誤り、重要なものとそうでないもの、この両者の見分け方・洞察を学びとらねばならないのです。

秘教学校のイニシエーションには、大きく分けて三つの階段があります。第一階段は新入り、つまり見習いの道です。まずこの道に足を踏み入れると、偉大な方々の注目を受けます。偉大な方々は、その者の知識を求め、神や大師がたのお役に立とうとする願い、また奉仕への願いが認められると、見習いとして受け入れられます。続いて、浄化の過程に入ります。肉体や諸媒体を浄化し純化する必要があるのです。と申しますのは、肉体や媒体には、本人の視力や理解力を妨害したり、障害となるものが沢山集められているからです。この過程で、苦難をもったり病気をしたり、災いや事件が起きたりするかもしれません。人によっては不具の身体に生まれたり、悲劇を味わったり、罪を犯したりまでするかもしれません。ですけど、これはみんな本人の魂が自ら選択してそうしていることを知っていて下さい。ですから、魂は浄化され整えられ、素直さと奉仕への姿勢ができるのです。

次の第二階段は弟子の道です。弟子は大師への絶対服従を学びます。また、すべての自分の仕事において、正確さと確実さを学びます。本物の職人にズサンさはみじんもありません。彼は自己自身に働きかけて、それまでひ弱でもろかった点を整えて完全なものとしていきます。弟子は大師の声、即ち彼の内在のキリスト(神性)の声に

耳傾けることを学びます。すると、キリスト、つまり彼個人の大師が英知をさずけ、生きる道を示してくれます。弟子は誰をもあざむいてはいけません。自分自身さえも。この第二階段にあざむきはあり得ないからです。

第三階段は、弟子がイルミネーション（魂の光輝、神我一体の宇宙意識）を受ける用意ができた時、すなわち秘儀の秘密を明かされるまでに至った時です。彼はもはや何の障壁もなく、不可視の世界で活動できるに違いありません。何となれば、真のイニシエーションを受けるのは、この内的な世界に入ってからなのです。かくして、イニシエートとなった彼は実際に大師の御手で触れられ、「高位段階」へ高められます。彼は物質主義や惑わしの墓から、即ち地上的もやもやからレベルアップし、己が天界の故郷である真実の光明の中に再び生まれるのです。

このように、光明の子等は努力をつづけ、すべての低級な欲求をしりぞけて、純化されます。彼等は白衣を身にまとうもの、魂の光輝の王冠で飾られる者です。しかも、まことに素朴であり、謙遜そのものです。そうして、自己統御と無我によって身につけたものは、神から来るもので、何一つ自分が自慢したり、自分に箔をつけたりするものではないことを知っています。ほんものの完成された使徒です。彼等は一切をあげて神の

御前に置きます。人類の奉仕に役立てるようにと。

2 その道に歩を踏み入れて

祈り——

私共は魂の静寂の中で、愛と英知と力の源から、栄光を受けるのを待っています。私共は神のみ光の中に、我が身を放棄いたします……。

人間はその進化過程の中で、上方へと向かうにつれ、自我性を強化してきました。これは必ずそうした過程をたどるのです。人間は自意識というものを持たねばならないのです。しかし、これはやがて神意識にとって代わります。この神意識は三つの形の表現をとることになります——力、英知、愛、この三種です。

今日では、多数の人々が奉仕の道に入りたいと願っています。苦しむ者を助け、未熟な人達を幸福と調和に導く手助けをするためにです。初めは、この道は簡単に見出せま